

1 経済日誌

2021年4月～2021年7月

全 国		和歌山・大阪	
4月1日	製造業景況感 大幅改善 日銀が発表した3月の全国企業短期経済観測（短観）で、大企業・製造業の景況感を示すDIはプラス5と前回12月調査から15ポイントの上昇となり、大幅に改善した。	4月1日	大阪市 まん延防止初適用へ 政府は、新型コロナウイルス対策本部で、大阪・兵庫・宮城の3府県の大阪市を含む計6市に対し1カ月間の「まん延防止等重点措置」の初適用を決めた。
4月19日	貿易収支 3年ぶり黒字 財務省が発表した2020年度の貿易統計によると、輸出額から輸入額を引いた全体の貿易収支は、1兆3070億円の黒字だった。黒字は3年ぶり。	4月17日	和歌山市にリハビリ専門職大が開学 和歌山県内初の専門職大学として、和歌山市の旧市民図書館跡地に開学した和歌山リハビリテーション専門職大学の入学式が行われた。
4月23日	消費者物価 4年ぶり下落 総務省が発表した2020年度の消費者物価指数によると、変動の大きい生鮮食品を除く総合指数が101.4と前年度比0.4%下がった。下落は4年ぶり。	4月30日	和歌山県内有効求人倍率 1.00倍 和歌山労働局は、県内の雇用情勢を発表した。2020年度の有効求人倍率は1.00倍で、前年度の1.36倍から0.36ポイントの低下となった。
4月30日	有効求人倍率 46年ぶり下げ幅 厚生労働省が発表した2020年度平均の有効求人倍率は1.10倍となり、前年度を0.45ポイント下回った。石油危機後の1974年度以来46年ぶりの下落幅となった。	5月13日	大阪オフィス空室率 12カ月連続上昇 オフィス仲介の三鬼商事が発表した4月の大阪中心部の平均オフィス空室率は、前月より0.10ポイント高い4.01%で12カ月連続の上昇となった。
5月18日	2020年度 GDP4.6%減 内閣府が発表した2020年度の実質国内総生産（GDP）は、リーマン・ショックがあった2008年度を超え、戦後最大のマイナスとなる4.6%減だった。	5月20日	大阪メトロ 民営化後初の赤字 大阪メトロが発表した2020年度の決算は、純損益が前年度比314億円減少し、43億円の赤字となった。2018年の民営化以降、初の赤字となった。
6月4日	2020年出生数 最小84万人 厚生労働省は、2020年の人口動態統計を発表した。出生数は84万832人で前年より2万4407人（2.8%）減少、5年連続で過去最少を更新した。	5月20日	和歌山県 ミカン収穫量 全国1位 近畿農政局は、和歌山県の2020年産ミカンの収穫量が16万7100tで前年比1万500t（7%）増加し、17年連続で全国1位になったと発表した。
6月23日	40年超原発 初の再稼働 関西電力は、運転開始から40年を超えた美浜原発3号機の原子炉を再稼働させた。運転期間を「原則40年、最長で延長20年」とする現行ルール下で全国初。	6月2日	和歌山県 IR事業者 初の選定 和歌山県は、県内に誘致を進めているカジノを含む統合型リゾート（IR）の事業者候補者を選定した。IR誘致を表明している自治体で事業者を選定したのは初めて。
7月1日	路線価 6年ぶり下落 国税庁は、2021年分の路線価（1月1日時点）を公表した。全国約32万地点の標準宅地は全国平均で前年比マイナス0.5%で、6年ぶりに下落した。	6月4日	和歌山県人口 5年で過去最大4万人減 和歌山県は、国勢調査結果の速報値を発表し、2020年10月1日現在の県人口は前回（2015年）より4万546人少ない92万3033人となった。減少数は過去最大。
7月23日	東京五輪 開幕 第32回夏季オリンピック東京大会が開幕した。開催都市・東京が新型コロナウイルスの緊急事態宣言下にある中、開会式は、近代五輪史上初めて無観客で行われた。	7月1日	大阪・ミナミ 路線価下落率最大 国税庁は、2021年分の路線価を公表した。全国の税務署別の最高路線価で、下落率が最も大きかったのは心斎橋筋のマイナス26.4%（前年比）だった。

2 地域開発のうごき

2021年4月～2021年7月

和歌山県内

4月9日 津波避難タワー 田辺市、白浜町の3地区で完成

田辺市の「会津川左岸地区津波避難タワー（同市紺屋町）」、「文里地区津波避難タワー（同市文里一丁目）」、白浜町中に建設していた津波避難タワーが完成し、落成式が行われた。

4月27日 印南町にオフィス・物流センターを増設

和歌山県は、株式会社ナカエ（印南町）がオフィス・物流センターを増設するにあたり、同社と県及び印南町が立地協定を締結したと発表した。2022年1月の操業を予定。

4月27日 すさみ串本道路 2025年、新宮紀宝道路 2024年に開通

国土交通省は、整備中の「すさみ串本道路」（延長19.2km）が2025年春に、熊野川をまたぐ「新宮紀宝道路」（2.4km）は2024年秋に開通するとの見通しを発表した。

5月25日 かつらぎ町に新工場建設

和歌山県は、和田精工株式会社（堺市）がかつらぎ町に新工場を建設するにあたり進出協定を締結すると発表した。建物・設備に17億4400万円を投資、2023年4月の操業を予定。

5月31日 太地駅 新駅舎完成

太地町が、地域の防災拠点となる複合施設として建設していたJR太地駅の新駅舎が完成した。1階は待合室や観光案内所などを兼ねた事務室、2階は集会所と備蓄倉庫を備えている。

6月11日 防災道の駅に「道の駅すさみ」が選定

国土交通省は、大規模災害時の防災拠点に位置づける「防災道の駅」として、全国39駅を初めて選定した。和歌山県からは、すさみ町江住の「道の駅すさみ」が選定された。

6月24日 和歌山市消防活動センターが開庁

和歌山市は、和歌山南スマートICに直結した立地に和歌山市消防活動センターを7月1日に開庁すると発表した。ヘリポートを備え、緊急消防援助隊の後方支援機能を有した防災拠点となる。

7月1日 紀南広域ごみ最終処分場稼働

みなべ町以南の10市町の一般廃棄物と、11市町村の産業廃棄物を埋め立てる「紀南広域廃棄物最終処分場」（田辺市）が稼働した。敷地は15haで、埋め立て容量は約19万8千 m^3 。

7月4日 高台に串本町新庁舎完成

串本町サンゴ台の高台で建設を進めていた、防災機能を有する串本町の新庁舎が完成し、現地で竣工式が行われた。新庁舎での業務は、7月26日より開始予定。

3 地域開発のうごき

2021年4月～2021年7月

大阪府内

4月1日 大阪大学箕面キャンパスが完成

大阪大学の新キャンパスが箕面市に完成した。新キャンパスは地上10階建て、外国語学部や大学院の授業のほか、地域住民向けの講義やイベントにも利用する。

4月3日 堺市に商業施設が開業

南海堺東駅前に商業施設「ジヨルノ」がオープンした。建物は、地上24階、地下2階建て、上層部は住宅、低層階部分は商業施設や図書館、保育園などの公共施設が入る。

4月8日 大阪・堂島に「フォーシーズンズホテル」が進出

東京建物などは、大阪市堂島地区でホテルとマンションが入る超高層タワーを開発すると発表した。タワーは高さ195mで、地上49階、地下1階建て、2024年の開業を予定している。

5月5日 和泉市新庁舎が完成

和泉市は、建て替え工事を進めていた和泉市役所の新庁舎が完成し、5月6日に開庁すると発表した。新庁舎は、免震構造や自家発電設備を取り入れ、防災機能を強化している。

5月19日 吹田市に西日本最大アリーナ

大阪府は、万博記念公園（吹田市）内に誘致する大規模アリーナの計画を公表した。最大収容人数は1万8千人でアリーナとしては西日本最大となる。開業は2027年秋頃を予定。

5月31日 大阪府で物流施設・商業施設・公園を開発

日本GLPは、大阪市東住吉区で物流施設・商業施設・公園一体のまちづくり事業を実施すると発表した。物流施設2棟と商業施設のほか公園を整備、2026年6月の全面開業を予定。

6月14日 茨木市で大規模物流施設を開発

日本GLPは、茨木市で複数棟で構成する大型物流施設「GLP ALFALINK 茨木」を開発すると発表した。3棟の物流施設の延床面積は約32万㎡、2025年7月竣工を予定。

6月28日 関西初のホテルブランド開業

2016年に閉館した「堂島ホテル」の跡地に、ホテル「アロフト大阪堂島」(大阪市北区)が開業した。アートと音楽をテーマとした「アロフト」ブランドのホテルは、関西初の進出。

7月17日 堺市北区に都市型ショッピングセンターが開業

イオンリテールは、堺市に都市型ショッピングセンター「そよら新金岡」を開業した。2019年に閉店した「イオン新金岡店」の跡地を再開発した。

4 関西国際空港

2021年4月～2021年7月

関西国際空港

4月7日 ピーチ、国内7路線で増便

ピーチ・アビエーションは、7月1日より10月30日まで国内7路線で増便すると発表した。7路線のうち、関空発着便は関空－釧路、新潟、長崎、宮崎線の4路線で、1日1往復が増便となる。

4月23日 関空旅客数 2020年度大幅減

関西エアポートが発表した関空の2020年度の総旅客数は、前年度比92%減の225万人で過去最低となった。国際線旅客数は、前年度比99%減の20万人となった。

4月28日 第1ターミナルのリノベーション工事を開始

関西エアポートは、5月28日から第1ターミナルのリノベーション工事を開始すると発表した。2025年開催の大阪・関西万博にあわせた工事で、国際線のキャパシティ拡大などを目的とする。

5月7日 「ファーストキャビン関西空港」が営業再開

関西エアポートは、2020年4月より休業していたホテル「ファーストキャビン関西空港」が5月11日より営業を再開すると発表した。

5月20日 自動PCR検査ロボットシステムを設置

関西エアポートは、1日最大2500検体の検査が可能な自動PCR検査ロボットシステムを設置したと発表した。国際線出発旅客を対象に2021年夏ごろの検査開始を予定している。

6月3日 関西エアポート、初の最終赤字

関西エアポートが発表した2021年3月期連結決算は、最終利益が345億円の赤字だった。2016年4月の民営化後、通期決算で最終赤字となるのは初めて。

6月15日 ピーチ、泉佐野市と包括連携協定締結

泉佐野市は、ピーチ・アビエーションと観光振興、地域活性化などを図ること目的に包括連携協定を締結したと発表した。ピーチ・アビエーションが自治体と包括連携協定を結ぶのは初めて。

6月30日 日・EU航空安全協定（BASA）が発効

ブリュッセルにて、「民間航空の安全に関する日本国と欧州連合との間の協定」（日・EU航空安全協定）の効力発生のための外交上の公文の交換が行われ、同協定が発効した。

7月1日 ピーチ、関空－女満別線に就航

ピーチ・アビエーションは、LCCとして初めて、関空－女満別線を就航した。この新路線の就航で、同社の関空発着の国内線は13路線、国内線は全33路線となる。

7月21日 2021年上期の旅客 開港以来最低

関西エアポートが発表した2021年上半期の関空の総旅客数は、新型コロナ禍前の2019年上半期比で94%減の100万人だった。上半期としては、1994年9月の開港以来最低となった。